

2023年度厚生労働省医政局委託事業
「在宅医療の災害時における医療提供体制強化支援事業」

連携型BCP/地域BCP策定モデル地域
和歌山県和歌山市(冬野)における取組み

一般社団法人幹

幹在宅看護センター・幹はうす・幹らんど

丸山美智子 中谷美保子 丸山博生 岡本香津美 大石芳弘

地域の状況

・人口 全国40位(令和2年10月1日)

和歌山県 922584人

和歌山市 356729人 ※県民の4割近くの人が、和歌山市に住んでいる

・地域の特徴

和歌山市は、豊富な自然景観に恵まれ、北部は緑豊かな和泉山脈が連なり、市のほぼ中央部を紀の川が東西に流れています。市の中心部に和歌山城があり、北西部の加太、南部の和歌浦・雑賀崎地区の沿岸は瀬戸内海国立公園の一部に指定されています。また、医療介護体制が整う41圏域に選出されており、救急告示病院数や従事医師数が全国平均を大きく上回っています。和歌山県立医科大学付属病院、日赤医療センター、労災病院など大きな病院も複数あり、医療体制が整っている街だと言えます。県内の約4割の事業所が和歌山市内にあります。今後起こりうる可能性が高く、広範囲に影響が大きいものと予想される地震(南海トラフ巨大地震等)があり、長期的な視点での備えが必要です。

・災害等の歴史

災害の記憶を 和歌山県教育ネットワーク

和歌山県教育ネットワーク <https://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp> > saigai

・在宅医療・ケア資源と病院等との連携 等

和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター、伏虎リハビリテーション病院、たぶせ在宅クリニック

選択中の情報

災害種別で選択



洪水 (想定最大規模)



土砂災害 (想定最大規模)



高潮 (想定最大規模)



津波 (想定最大規模)



道路防災情報



地形分類

掲載データに関する留意事項

すべての情報から選択

選択情報のリセット

指定緊急避難場所 洪水

解説 凡例

指定緊急避難場所 津波

解説 凡例

表示 災害リスク情報>洪水浸水想定区域 (想定最大規模)

合成 解説 凡例

災害リスク情報>洪水浸水想定区域 (計画規模 (現在の凡例))

合成 解説 凡例

災害リスク情報>洪水浸水想定区域 (計画規模 (旧凡例))

合成 解説 凡例



スクリーンショット

20m~

10~20m

5.0~10m 2階の屋根以上が浸水する

3.0~5.0m 2階部分まで浸水する程度

0.5~3.0m 1階天井まで浸水する程度

リスク検索

3D

凡例

わが地域の課題

・これまでの被災経験・コロナ対応で特筆すべきこと

2018年、和歌山市で水害被害で道路の冠水、住宅の浸水。

2021年、水道管破裂で6万世帯が断水。

コロナでは、和歌山方式で全員入院、第五波からは在宅療養となり、クラスターが続いた。和歌山市の訪問看護ステーションでは1番目に在宅対応した。

・連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由

事業所は0歳から100歳以上まで、身体も心も対応しており、これから来る南海トラフ巨大地震に対応する必要がある。和歌山市で、何らかの重大な事態が発生した際の影響をプロファイリングし、これを元に戦略を立て、備えておくことが大切である。発災後は、利用可能なあらゆる資源を柔軟に活用し、被害を最小限に抑える必要がある。そのためには、まず和歌山市での情報収集をおこない、各団体の活動内容を理解する必要があると考えたため。

・わが地域のBCP観点からの課題

自治体、NPO、職能団体など各団体との連携、情報の集約、共有、発信がわかりにくい

医療的ケア児は、電力の確保が必須であり、発電対応が求められる

水の確保は、全員の課題

発達障がいの子どものための避難所課題

有事における地域医療・ケア機能の分担・連携（近隣の事業所との提携）

スタッフ、利用者の安否確認の手段（スタッフはSNS、災害伝言板利用、利用者へ各事業所の連絡が重複し連絡が困難になることもある）

移動手段の確保（燃料の確保）

避難所運営、救護者の運営

地域全体での訓練の実施

今年度の取り組み(1)

- ・目的(何をを目指すのか)
- ・実際にどのようなことにチャレンジするのか

※特に在宅療養者の医療・ケアをどのように継続していくかという観点から記載をしてください。

事務所のある和歌山市地域の地理的特性として、北部に和泉山脈があり、大雨時には水害も多く発生している。また、線状降水帯の発生だけでなく近年、気候変動や環境変化に伴い、災害から新たな災害をも引き起こされる可能性も高い。

そのため多数の在宅療養者に関連した団体が防災対策の研修を行っているが横のつながりが無い。

今回、連携型BCP/地域BCP策定モデル地域に選ばれたことを機に和歌山市でどれだけの団体がどのように防災対策を行っているかを調べて各団体に報告することで在宅療養者の医療・ケアを継続できるシステムづくりの第一歩とする。

1) 各団体へのインタビュー

2) 令和5年12月10日に和歌山初、第1回BHELP開催に各団体から参加してもらい情報共有する

今年度の取り組み(2)

- ・必要な支援
- ・具体的スケジュール

1.和歌山市に関して

- 1) 行政・病院・各団体に情報収集(インタビュー)後、情報集約する
- 2) 日本災害医学会の地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース(BHELP)へ参加
- 3) BHELPに各団体から参加してもらい、情報集約を他の事業所と共有する

2.和歌山市冬野地区に関して

- 1) 防災研修会の開催
- 2) 避難訓練の実施

今年度の取り組み(3)

・7月1日以降の進捗

8月1日

厚生労働省医政局委託事業 連携型BCP・地域BCP 策定に関するモデル事業 会議

【さまざまな団体が災害対策を話し合い、研修を受けている。しかし、横のつながりがなかなかできていない。災害対策活動をしている団体などを調べ横の繋がりを持ちたいと考えた】

8月7日

日赤カンファレンス:協議・令和5年12月10日 日本災害医学会の地域保健・福祉の標準化トレーニングコース(BHELP)を開催

各団体から、1名以上参加してもらうことが目標

8月9日

地域の二次病院である伏虎リハビリ病院:協議・JRAT(一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会)の紹介

8月29日

和歌山県知事岸本さんに説明

9月4日

冬野自治会長、名草地域包括支援センター保健師、和歌山県立医科大学保険看護学部教授に説明

今後、地域と一緒に講習・訓練予定

9月11日

和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター

事前に防災に強い町づくりを意識して、減災活動

9月13日

保健所と情報の共有